

## 下村善四郎家文書目録

## 凡 例

- 一、本目録は、1997年9月に古書店より購入した長浜市高月町西阿閉の下村善四郎家文書164点の目録である。
- 一、目録の項目は、年月日・文書名・備考・頁数・請求番号である。
- 一、年月日は、史料の作成年月日をとった。作成年月日が明記されていない場合は、本文等から推測した年代を（ ）で、全く未詳の場合は「---」と記した。
- 一、文書名は、原題をとり、適宜（ ）で内容を補足した。原題のないものについては、〔 〕で文書名を付した。
- 一、備考では、差出宛名を「差出→宛名」と表記したほか、本紙・付属物等に関する特記事項を記した。
- 一、頁数は、一紙を「通」、一穴綴を「綴」、二穴以上の綴を「冊」（但し、複数の文書を合綴しているものは「綴」）、包紙・断簡等を「枚」とした。
- 一、判読不明な文字は□で示した。
- 一、旧字体・異体字・俗字は常用漢字に改めた。
- 一、紙幅の都合上、住所に「近江国」「伊香郡」等とあった場合、目録上での重複を避けて省略した。また、「御」や「様」等の敬称も、内容に支障がない限り省略した。
- 一、目録順については、分類項目毎に編年して配列した。配列にあたっては、一括関係を崩さないことを原則としたため、編年順よりも一括関係を優先させた箇所もある。一括の中で編年した上で、その最も古い文書の年月日で全体の配列の中に組み込んだ。
- 一、分類項目は、「村政」「戸口」「土地」「租税」「金融・貸借」「宗教」「家」「勘定」「その他」の9項目である。
- 一、分類項目について、以下に特記事項を示す。
  - ①家 近代以降に下村家が営んだ醤油醸造業関連史料もここに収めた。
- 一、本文書の整理・データの作成は、井伊裕子・南田孝子が行い、目録の編集は青柳周一があたった。
  - ※本目録は、平成27年度科学研究費助成事業（基盤B・一般）「中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究一中・近世村落像の再検討一」（研究代表者・青柳周一、課題番号24320127）による成果の一部である。

村 政

年月日	文書名	備考	員数	請求番号
天保14年 8 月	目録帳（水帳・検見帳等庄屋役預り書付類）	彦根組→	1 冊	3
嘉永 1 年 9 月	御上知ニ付御高分米反別取調録并ニ村方明細帳取調上帳	預り所西阿閉村→	1 冊	33
嘉永 3 年11月24日	上（西阿閉村極難渋者ニ付願書）	三役→代官所	1 冊	153
嘉永 6 年	〔相撲・人形芝居・浄瑠璃等呼寄せ儲け等禁止の触書ニ付村中連印請書〕		1 冊	139
元治 1 年12月 3 日	三給小入用割帳	彦根組→	1 冊	82
慶応 1 年 6 月	御尋ニ付明細書左ニ奉申上候	西阿閉村庄屋弥太夫・横目善四郎→奉行	1 冊	55
慶応 1 年 6 月	〔西阿閉村明細帳〕	庄屋弥太夫・横目善四郎→奉行、下書	1 冊	57
慶応 1 年 7 月	御上知ニ付明細書取調上帳下	庄屋弥太夫・横目善四郎他 1 名→奉行	1 冊	56
慶応 1 年12月	御達書之写（預り所ニ相成ニ付）	彦根預り領所組→	1 冊	24
明治 2 年10月	人民御保全永世産業をあんせしめんため戸籍編製被仰付其法左之通	彦根藩→	1 冊	21
明治 3 年 8 月	乍恐以書付御願奉申上候（当藩の見当杭修繕仰付願）	西阿閉村庄屋善四郎他 1 名→預り役所	1 通	67
明治 4 年 1 月	三給小入用覚帳	預所→、裏表紙に「春作蔵 夏太郎次郎 秋弥太夫 冬権左衛門」とあり	1 冊	117
明治 4 年12月	三給小入用割帳	元彦根県→、裏表紙に「春権左衛門 夏善太夫 秋太郎次郎 冬弥太夫」とあり	1 冊	114
明治 5 年 1 月	三給小入用覚帳 元彦根県持	裏表紙に「春権左衛門 夏善太夫 秋太郎次郎 冬弥太夫」とあり	1 冊	125
明治 5 年12月	三給小入用割帳并ニ地券掛り帳 元彦根県組持	後欠	1 冊	122
明治 5 年12月	小入用拾元帳	元彦根県→	1 冊	123
明治 6 年 8 月 1 日	諸書写下扣	西阿閉村→	1 冊	39
明治 7 年 8 月 5 日	山論ニ付御伺書（浅井郡種路・川原・市場三か村との山論下知の次第）	西阿閉村→	1 冊	46
明治 7 年10月 9 日	村合併ニ付有金配当帳	元彦根組→	1 冊	128
明治 9 年 2 月	諸入用扣覚帳	西阿閉村南小路年番下村善四郎→、「記（馬場分銭渡し）」（3月26日、正副戸長→下村善四郎）・「記（銭請取）」（子4月25日、市場邑→南小路）を括付	1 冊	131
明治 9 年 3 月	歳中小入用帳	南小路年番善四郎他 3 名→	1 冊	134
明治10年 1 月15日	南小路分（諸事出入覚帳）	年番黄四良他 6 名→、「記（金銭受取）」（6月21日、西阿閉村木清→南年番中）を括付	1 冊	135
明治10年 1 月18日	諸事出入覚帳	南小路→	1 冊	133

## 村 政

年月日	文書名	備考	員数	請求番号
明治10年 1月26日	諸事出入覚帳	南小路→、「記(金銭受取)」(丑 2月15日、善右衛門→南小路年番)・「記(金子受取)」(1月26日、定左衛門→南年番)を括付	1冊	132
明治26年10月 6日	〔第九区長代理任命状〕	古保利村長内藤長太夫→大字西阿閉下村木四郎、封筒	1通	73
卯 2月24日	触口田村□り西阿閉村(鳴物の儀渡世分御免の触廻状)	御預役所→坂 田村他15か村	1冊	141
卯12月	覚(紙代等勘定)	油屋長兵衛→西阿閉村役人衆中	1冊	146
巳 7月 8日	出入造用銀割帳 但シ八拾目打		1冊	88
巳10月	覚(三名京行き等願書)	丈太夫→庄屋弥太夫	1通	149
午年	〔人馬上り下り賃等勘定帳〕		1冊	143
7月 6日	御救米被下方取調書 雛形	郡惣代桐畑次郎→	1通	66
---	廻章(御料巡村二付)	大津県租税懸三宅権大属他1名→	1綴	36
---	〔山岡仁左衛門等連印帳〕	112名分、後欠か	1冊	42
---	〔西阿閉村明細帳〕	弥太夫・善四郎他1名→、下書か	1冊	44
---	〔寄合雑用等村入用銀勘定帳〕		1冊	145

## 戸 口

年月日	文書名	備考	員数	請求番号
慶応 3年 3月	宗門御改帳	西阿閉村→、「宗門惣寄増減書上帳」(慶応 3年 3月、西阿閉村→)を合綴	1冊	22
明治 2年	宗門御改帳	西阿閉村→、「宗門惣寄増減書上帳」(明治 2年、西阿閉村→)を合綴	1冊	38
明治 3年	宗門御改帳	西阿閉村→、「宗門惣寄増減書上帳」(明治 3年、西阿閉村→)を合綴	1冊	37
(明治 5年)	人員誕生日調帳 彦根組分		1冊	14
(壬申年)	〔戸籍下調綴〕	〔生年月日等覚書〕等11通挟込、閲覧不可	1綴	62
(壬申年)	〔戸籍下調綴〕	閲覧不可	1綴	63
---	〔秀五郎家戸籍・家業・田畑書付〕		1通	70
---	〔戸口異動等覚書〕		1通	151
---	〔戸口異動・高等覚書〕		1通	152
---	入人数覚(人名書上)		1通	159

## 戸 口

年月日	文書名	備考	員数	請求番号
---	〔喜内分人別書上〕	裏面は〔淀御高ノ等書付〕	1 通	162
---	〔断簡〕（戸口異動）		1 枚	163

## 土 地

年月日	文書名	備考	員数	請求番号
寛文6年8月23日	〔名寄帳〕		1 冊	16
元禄6年6月27日	伊香郡西阿閉村竹御検地帳	金田善之丞他1名→	1 冊	40
文政11年7月	三組御高覚（彦根組・淀組・安藤組）	下村善四郎→	1 冊	1
天保3年	高名寄帳	彦藩組→	1 冊	32
（天保6年）	改おほへ（田畑反別・石高書上、已年改年齢・異動書上）		1 通	160
（天保12年9月24日）	三給田畑覚	下山田喜兵衛→西右衛門	1 通	150
弘化4年12月	高名寄帳 彦根御領分	彦根組役人中→、〔嘉永二年年貢高等書付〕他3通を括付、合綴5～7	1 冊	5
嘉永7年12月	高名寄帳 彦根御領分	〔石高勘定覚〕を括付	1 冊	6
文久3年9月	高名寄帳		1 冊	7
嘉永1年12月	高名寄帳 御領所		1 冊	53
嘉永2年9月4日	御尋ニ付乍恐書付奉指上候（高反別内訳）	西阿閉村庄屋西太夫他2名→奉行、綴外れ	3 枚	68
安政3年12月	他領御高名寄帳 彦根領扣		1 冊	85
慶応1年7月	御尋ニ附乍恐書付奉差上候（田方畑方反別分米）	西阿閉村庄屋弥太夫・横目善四郎他1名→代官所	1 冊	54
慶応1年	高名寄覚帳 三給之高寄	下村善四郎→	1 冊	18
慶応4年9月	高反別小前帳	彦根預り所→	1 冊	20
明治3年1月	三組御高帳 写	表紙に「三給庄屋地押分帳与押合せ記し置者也」	1 冊	28
明治4年12月	高名寄帳		1 冊	50
明治7年12月21日	高替下調帳	戸長→	1 冊	136
明治8年3月	地位等級下調帳	村役場→	1 綴	129
---	〔伊香郡村々高附帳〕		1 冊	13
---	上（検地帳）	西阿閉村→	1 冊	29
---	高反別小前取調覚		1 冊	30
---	覚（高反別内訳）		1 冊	41

## 土 地

年月日	文書名	備考	員数	請求番号
---	〔彦根領林内分字反別書付〕	林内→	1 通	69
---	〔丈太夫口田畑反別・字等書上〕		1 通	71
---	地券野帳写		1 冊	138
---	〔田畑反別名寄・戸口異動書上〕		6 通	155
---	〔人別石高書上〕		1 通	156
---	惣所持反別（取調雛形）		2 通	157
---	〔断簡〕（田畑反別・石高）		2 枚	164

## 租 税

年月日	文書名	備考	員数	請求番号
寛文6年8月23日	〔西阿閉村反別分米高書上〕		1 通	148
安永4年	水押拾ヒ御検見帳	西阿閉村→	1 冊	11
安永9年9月	当立毛虫附拾御検見帳	西阿閉村→	1 冊	12
寛政9年8月	当立毛拾ヒ御検見帳 案内帳	西阿閉村→	1 冊	87
天保11年11月	藪御年貢並家役石役定目録 古帳	彦根組→	1 冊	31
弘化2年11月	凶作ニ付御引米割附帳	彦根組→	1 冊	93
嘉永4年9月	御代官所御内考反別位書下見帳（浅井郡田村）	浅 田村役人中→	1 冊	34
嘉永7年12月	藪御年貢 家役石役 定目録	彦根組→、「高名寄帳 彦根御領分」（嘉永7年12月）を合綴	1 冊	52
安政2年9月8日	御物成免割元帳下書	彦根組→、「おほへ（新兵衛高越す分）」他1通を括付	1 冊	91
安政3年12月	〔御用金年賦取立覚帳綴〕	彦根組→、「七番」帳（文久2年12月）まで7冊を合綴	1 綴	94
元治1年8月	御用金取立帳	彦根組→、綴外れ	1 冊	137
慶応1年12月	御年貢皆済目録帳	彦根預り所組→、「覚（割当り分等入用勘定）」を合綴	1 冊	19
慶応2年8月	高反別毛附上帳下	御領預り所組→、後欠	1 冊	96
慶応3年9月	高反別毛附上帳下	預り所組→	1 冊	98
慶応4年8月	反別毛附帳	西阿閉村→	1 冊	61
明治1年	御物成免割元帳	破損により一部欠	1 冊	104
明治2年9月29日	正金御用間金取立帳		1 冊	102
明治2年9月	当已田方反別毛附帳	西阿閉村→	1 冊	51
明治2年9月	反別合毛附帳下	西阿閉村庄屋弥太夫・年寄善四郎他1名→預り役所	1 冊	60
明治3年9月	午年田方御検見ニ付見（内見帳）	西阿閉村→	1 冊	48

## 租 税

年月日	文書名	備考	頁数	請求番号
明治3年11月28日	御物成免割帳	預所組→	1冊	105
明治3年11月29日	御年貢俵数并銀納扣覚帳	預り所組→、合綴108～109	1冊	109
明治3年12月	御年貢正米納扣覚帳	預り所組→	1冊	108
明治3年12月12日	米方取立帳	預所→	1冊	111
明治3年12月	三給割元帳	宿善四郎・村役人→	1冊	110
明治4年8月	此帳面拾歩壱苅取願上帳下	右村（伊香郡壱番組元彦根預り所西阿閉村）庄屋弥太夫・年寄善四郎→大津県庁	1冊	25
明治4年9月	当未下見合毛附帳	西阿閉村→	1冊	59
明治4年12月14日	御物成免割帳	大津県→	1冊	118
明治4年12月17日	米銀拾ひ元帳	元彦→	1冊	112
明治4年12月17日	銀方取立帳	元彦→	1冊	113
明治4年12月17日	米方取立帳	元彦→	1冊	115
明治4年12月	未御年貢皆済目録津出し帳	元預り所→、「覚（納米内訳）」（尾上舟会所→西阿閉村庄屋善四郎）を括付、合綴119～120	1冊	119
明治4年12月	御年貢丸俵取調帳	元彦根預り所→	1冊	120
明治5年9月	当申合毛附申帳	西阿閉村→	1冊	47
明治5年11月	申貢米銀納取調帳	元彦根県組→、「覚（三ツ割分未納米損金分勘定）」を挟込	1冊	121
明治5年12月22日	御物成免割帳	元彦根県→	1冊	124
明治5年12月22日	米方取立帳	元彦根県→	1冊	126
明治6年8月	諸税根帳（奴婢等税賦金・新規免許鑑札稼業願書）	西阿閉村→	1冊	27
明治7年11月	金納願書（山陰の田地がち二付）	西阿閉村→	1冊	26
（卯年）	〔高懸り人足代等勘定覚〕	帳外れ	1枚	154
1月26日	〔本途物成米の内臨時代銀納二付達書〕	預役所元ノ中→右村々（西物部村他10村）役人中	1冊	43
――	水押拾出し帳		1冊	35
――	〔西阿閉村年貢金納・米納分勘定覚等綴〕		1綴	142

## 金融・貸借

年月日	文書名	備考	頁数	請求番号
宝暦5年3月13日	頼母子銀子人数覚帳	西阿閉村下村善六→結主吉右衛門	1冊	89
文政12年10月6日	主法帳（淀講）	両郡淀領分村々講元寺院・医師中他11名→	1冊	2

## 金融・貸借

年月日	文書名	備考	頁数	請求番号
天保7年1月	金銀貸附覚帳	西阿閉下村善四郎→、「覚（遣し金）」（戊12月、西右衛門→善四郎）を括付	1冊	4
弘化4年1月	平太夫出入万扣帳	「覚（掛銀受取）」（未9月、世話方→阿閉平太夫）他1通を括付	1冊	92
安政5年2月	御冥加二付仕法講人数帳	彦根組→、「書付」を括付	1冊	8
安政6年9月	取退講仕法帳	恩覚寺門徒中→	1冊	9
元治1年8月晦日	取退講仕法帳	彦根組→	1冊	10
元治1年8月晦日	仕法録 彦根組（取退講）	講元庄屋善四郎他10名→	1冊	58
元治1年8月晦日	取退講初会懸銀請取帳	彦根組→、破損	1冊	81
元治1年8月	取退講諸入用覚帳	彦根組→、「覚」（子9月4日、ひしこ酒さ→彦根組衆中）を括付	1冊	83
慶応1年9月7日	取退講三会目掛銀請取帳	彦根組→	1冊	95
慶応1年9月7日	取退講三会目雑用帳	彦根組→	1冊	100
慶応2年3月10日	四会目掛銀請取帳	御領預り組→	1冊	97
慶応2年12月	年々預り并二貸附覚帳	御領組→	1冊	99
慶応4年2月29日	五会目掛銀請取帳	預り所組→	1冊	101
明治2年3月18日	六会目掛銀請取帳	預り所組→、合綴106～107	1冊	106
明治2年9月晦日	取退講懸銀不納附出帳		1冊	107
明治3年12月	金銀暮勘定帳		1冊	103
明治4年9月15日	八会目懸銀請取帳	元彦根預り所大津県組→	1冊	116
明治4年9月	七会目懸銀請取帳	預所組→	1冊	86
明治5年3月6日	九会目懸銀請取帳	元彦根預り所長浜県組→	1冊	127
壬申11月	元彦根御藩の拝借米明細書	西阿閉村副戸長下村善四郎他1名→、「借金・借米覚」を挟込	1冊	49

## 宗 教

年月日	文書名	備考	頁数	請求番号
明治3年8月	乍恐謹而奉願上候（神職願）	意波閉神社祝部阿閉太郎阿閉行直・甘櫟崎神社同割→淀藩役所、下書	1冊	45
明治4年1月	太々神楽有志姓名帳	犬上郡清水村荒神山神主奥山常雄→	1冊	17
明治4年8月	除地其外書上帳（意波閉社・甘櫟前社）	伊香郡壺番組西阿閉村→	1冊	23
――	〔下書帳面〕	「香良洲皇太神宮」とあり	1冊	65
――	〔除地其外書上帳〕（雛形）	右何社神職誰・何宗何寺・右村年寄誰・庄屋誰→大津県庁	1綴	147



家

年月日	文書名	備考	員数	請求番号
天保7年1月	普請土蔵諸入用覚帳	西阿閉村下村善四郎→	1冊	90
安政3年2月23日	婚礼祝儀受納帳	下村善四郎→	1冊	84
明治29年2月	諸事日記覚帳	下村木四郎→	1冊	130
明治39年1月	掛ヶ帳		1冊	79
明治39年9月	掛ヶ帳		1冊	80
明治43年9月	懸帳	西阿閉下村正油店→	1冊	76
大正丑(2)年1月	懸帳	表紙破損	1冊	77
(35年9月10日)	〔諸味・塩・水・糍等醤油製成量覚〕	帳外れ	3枚	144
1月	懸帳	西阿閉下村木四郎→、表紙破損	1冊	78
---	教訓書	表紙欠・後欠	1冊	15
---	算数学	下村→	1冊	64
---	日本外史字解 中	写本、「阿閉下村徳松」とあり	1冊	72

勘 定

年月日	文書名	備考	員数	請求番号
未閏月8日	右入用覚(舟賃等)		1冊	140
(9月17日)	〔銀高勘定覚〕		1通	161
(9月20日)	〔銀高寄分書上〕		1通	158

その他

年月日	文書名	備考	員数	請求番号
---	〔貼り紙外れ一括〕		2枚	74
---	〔断簡〕		1枚	75

## 解題

本目録は、旧伊香郡高月町西阿閉（現長浜市高月町西阿閉）の下村善四郎家文書164点の目録である。下村家の当主は近世後期から明治十年（1877）頃までは「善四郎」、それ以降は「木四郎」と名乗っている。

下村家は、近世にあっては西阿閉村で庄屋や年寄を、近代には副戸長などを務めた家であり、そのため同家文書群中には近世～近代の西阿閉村の村方史料が多く含まれている。最も古い年紀の史料が、寛文六年（1666）の「〔名寄帳〕」（請求番号16）と「〔西阿閉村反別分米高書上〕」（同148）である。さらに元禄六年（1693）「伊香郡西阿閉村竹御検地帳」（同40）をはじめ、17世紀末～18世紀の史料が数点存在するほかは、19世紀以降の史料がその大半を占めている。

西阿閉村は相給村であり、寛永石高帳では彦根藩領253石余、幕府領760石余、紀伊田辺藩領507石余であったが、元禄郷帳では幕府領が甲斐甲府藩領、さらに天保八年郷帳では山城淀藩領になっている。そのため、文政十一年（1828）「三組御高覚」（同1）などによれば、村内は「彦根組」・「淀組」・「安藤組」という3つの組に分かれており、下村家はこのうち彦根組に属していた。

同村の彦根藩領は、文久二年（1862）の10万石召し上げにともなって、慶応元年（1865）には愛知・浅井・伊香・坂田郡の41ヶ村および愛知郡19ヶ村と共に預所（年貢は幕府に納入されるが、藩の実質的な支配下にある村々）となっている。そうした経緯から同年の「御上知ニ付明細書取調上帳下」（同56）などが作成されており、この年以降は史料中での彦根組という名称も「彦根御預り所組」（同19）や「御領御預り所組」（同96）などへ変化している。さらに、明治四年（1871）の廃藩置県と彦根県の廃止を境に「元彦根県組」（同121）などと変化するが、一方で「御預所組」（同86）という名称も同年まで見られる。

また、弘化四年（1847）に幕府は相模国の海岸警衛を彦根藩に命じるにあたって、相模国三浦郡・鎌倉郡で1万4600石の村替えを命じ、その代わりに近江国内で上知を行い、対象となった村々を彦根藩の預所とした。この措置に伴って、嘉永元年（1848）「高名寄帳 御領所」（同53）や「御上知ニ付御高分米反別取調録并ニ村方明細帳取調上帳」（同33）などといった史料も作成されている。以上のような彦根藩領の変遷過程を追う上で、下村家文書は格好の史料とすることができる。

また、相給村の組ごとに行われた取退講に関する史料も多い。近代以降の下村家は醤油醸造業も営んだようで、その関係史料も数点残されている。

（青柳周一）